

がんばろう  ニッポン!

サッカーファミリーのチカラをひとつに!

東日本大震災 復興支援活動

震災発生後から 10 年間の取り組み

1. 国内外のサッカーファミリーからの支援
 - (1) 日本赤十字社への義援金
 - (2) サッカーファミリー復興支援金
 - (3) 関係機関からの支援

2. JFA 復興支援活動
 - (1) 復興支援特任コーチの設置とその活動
 - (2) サッカー施設 新設・改修
 - (3) 物資支援
 - (4) 競技会関連活動
 - (5) サッカー教室・フェスティバル・トレセン支援
 - (6) 被災チーム活動補助
 - (7) JFA・キリンスマイルフィールド／JFA・キリンビックスマイルフィールド
 - (8) DREAM 福島アクションプラン

3. その他
 - (1) 登録料免除
 - (2) サッカーファミリー復興支援金 収支

2021 年 3 月

公益財団法人日本サッカー協会



1. 国内外のサッカーファミリーからの支援

(1) 日本赤十字社への義援金

JFA を通じて日本赤十字社へ寄付することを目的に、震災発生直後の 2011 年 3 月 16 日、「東日本大震災 義援金口座」(日本赤十字社向け) を開設し、JFA 公式 WEB サイトにも掲載、義援金募金を開始した。義援金募金は 2013 年 3 月末で終了し、総額 263,423,073 円を日本赤十字社に寄付した。



日本赤十字社への寄付総額： **263,423,073** 円

■ 義援金の寄付 (日本赤十字社への寄付)

	振込日	金額
第1回	2011年8月8日	218,211,452円
第2回	2012年5月1日	43,206,250円
第3回	2013年3月25日	2,005,371円
総額		263,423,073円

※2013年3月末に義援金口座は閉鎖

※この金額の中には2011年3月29日に開催したチャリティーマッチでの義援金160,955,364円も含む

(2) サッカーファミリー復興支援金

上記義援金とは別に、2011年4月16日に被災地におけるサッカー環境を取り戻すことを目的とした「サッカーファミリー復興支援金口座」を開設した。JFA は、この「サッカーファミリー復興支援金」を財源に東日本大震災復興支援活動を実施している。2020年12月時点で総額9億7,900万円を超える寄付金をお預かりした。

総額 **979,388** 千円

(表の単位：千円)

項目	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合計
収入の部											
寄付	36,921	8,752	5,451	13,384	3,300	1,072	6,510	2,862	2,056	39	80,347
JFA	166,090	3,677	0	5,000	0	0	0	0	0	0	174,767
キリングループ	100,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100,000
UEFA	51,260	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51,260
FIFA		370,372	42,736	0	82,158	0	77,748	0	0	0	573,014
年度収入合計	354,271	382,801	48,187	18,384	85,458	1,072	84,258	2,862	2,056	39	979,388

(3) 関係機関からの支援

① FIFA からの支援

■ 640 万ドルの財政支援 **2011 年度** **2012 年度** **2013 年度** **2017 年度**

(内訳) ・450 万ドルの Financial Support

・190 万ドルの Goal Project 資金

※計 640 万ドルの両資金は、被災した施設の改修や被災地における新たな施設の整備に使用されることを前提に提供される。なお、これらの資金は、JFA 発注のもと行われた事業の経費を工事終了後 FIFA がその代金を負担するかたちで提供される他、一部の事業は FIFA が直接発注し、施設整備を行う場合もある。

■ アディダス本社への働きかけによるサッカー物資支援 **2011 年度**

(内訳) ・サッカーボール 15,000 個

・サッカーウェア 15,000 着 (ジャージ、パンツ、ソックス等)

※これらの物資は 2011 年 11 月に貨物船輸送にて到着。

【FIFA 支援物資、被災 3 協会へ発送】

上記 FIFA 支援物資は、岩手・宮城・福島の 3 協会に対して提供。また、2011 年 12 月 10 日に MFA 松島フットボールセンターをブラッター FIFA 会長が訪れ、被災した子どもたちに直接支援物資を手渡した。



② UEFA からの支援

2011 年度

■ 50 万ユーロの財政支援

※2011 年の FIFA クラブワールドカップの開催期間中の 2011 年 12 月 16 日、UEFA 支援金の贈呈式をリッツカールトン東京にて開催。この財源は、サッカー施設の新設・改修に充当。



③ アディダス ジャパンからの支援

2011 年度

■ サッカーグッズの提供

(内訳) ・サッカーシューズ約 15,000 足

・代表レプリカ (シャツ、パンツ、ソックス等) 約 13,000 点

【アディダス支援物資、被災地へ発送】

(被災チーム直送)

2011 年 10 月、アディダス ジャパン提供のスパイク・代表レプリカ (ジャージ) を、岩手、宮城、福島の被災エリアを中心に活動する約 140 チームに対し提供。提供したスパイク総数は 6,536 足、代表レプリカ (ジャージ) は 3,268 着。小倉会長からのメッセージ文に加え、JFA90 周年記念誌を併せて発送 (発送先は 6 頁を参照)。

(被災 5 協会へ提供)

2011 年 11 月、アディダス ジャパン提供の代表レプリカ約 10,000 点を青森・岩手・福島・宮城・茨城の 5 協会に対して提供。



④ KIRIN グループからの支援

2011 年度 **2012 年度** **2013 年度** **2014 年度** **2015 年度** **2016 年度** **2017 年度**
2018 年度 **2019 年度** **2020 年度**

■ サッカーファミリー復興支援金 (JFA) への 1 億円の寄付

・5,000 万円をサッカー施設の新設・改修に使用

・5,000 万円をその他の JFA 復興支援活動に使用

■ 被災県サッカー協会への活動資金寄付

・岩手・宮城・福島 FA に各 1,000 万円

・青森・茨城 FA に各 500 万円

■ JFA・キリンスマイルフィールド/JFA・キリンビッグスマイルフィールドの開催

岩手・宮城・福島県内の全ての小学校を対象に元日本代表によるサッカー教室として、2011年から2017年3月まで約6年間にわたり、「JFA・キリンスマイルフィールド」を開催。

2017年度からは、「JFA・キリンビッグスマイルフィールド」として、それぞれの被災地により寄り添う形のフェスティバル方式で実施（詳細は21ページを参照）。

※2020年度はコロナウイルス感染拡大のため中止

2. JFA の復興支援活動

(1) 復興支援特任コーチの設置とその活動

2011年度 **2012年度** **2013年度** **2014年度** **2015年度**

JFA が東日本大震災の復興支援活動の諸施策を実施するにあたり、岩手・宮城・福島の沿岸部を中心とした実際に大きな被害を受けたサッカーファミリーの状況をしっかりと見据え、被災地のニーズにあった活動とすべく、専任で復興支援の活動に従事する復興支援特任コーチを設置した。

■ 特任コーチ加藤 久氏 就任期間：2011年10月から2012年9月末

震災後、初めての特任コーチには、自身が宮城県出身でもある元日本代表の加藤久氏が就任した。被災地を回る中で、被災地の3種・4種と中心としたサッカークラブの指導者とも密に連絡を取りながら、チームに寄り添うようなサポートを実施。加藤氏の提案を受けて、被災沿岸地域の3種・4種登録チームへの交通費補助、陸前高田や大船渡（岩手県）でのポット苗による芝生化等の施策を実施した。

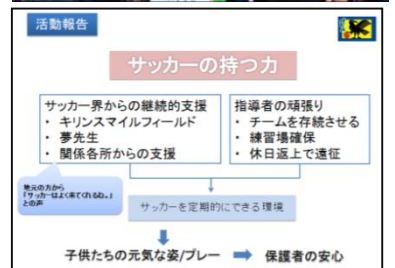


■ 特任コーチ手倉森 浩氏 就任期間：2013年1月から2016年1月末

加藤久氏の1年間の活動期間終了後、その後任として同じく東北出身の手倉森浩氏が復興支援特任コーチに就任した。手倉森氏の活動も、加藤久氏と同様、チームに寄り添うかたちでのサポートという基本姿勢を継承しながら、岩手・宮城・福島の沿岸地域の登録チームの活動をきめ細やかにサポートした。

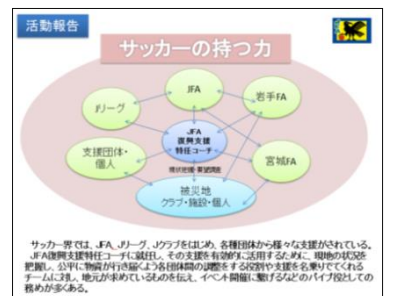


手倉森氏の活動は2016年1月末まで継続し、「寄り添いサポートすること」をベースに、「子どもたちと指導者のレベルアップ」にも着手した。特に地区トレセンスタッフへのアプローチでは、ナショナルトレセンコーチが指導実践者やサポートコーチなどを担い、分析力やコーチング力の向上に努めた。また、トレセンに限らず、被災地域での指導者講習会を開催し、特に被災地域の受講者には受講料の免除も実施した。2014年3月末には、被災地域の試合・練習環境の充実のためのサッカーゴール寄贈等を企画し、実施するに至っている。



■ ナショナルトレセンコーチによるトレセン支援

併せて、手倉森特任コーチを全体統括として、ナショナルトレセンコーチによる被災地域のとトレセン活動のサポートを実施。岩手県を菊池利三氏、宮城県を山路嘉人氏、福島県を山崎茂雄氏・大野真氏（福島は、その他に池内豊氏、高倉麻子氏、山路嘉人氏、木村康彦氏、片渕浩一郎氏、山口隆文氏、須藤茂光氏、加藤賢治氏、布啓一郎氏、眞藤邦彦氏、川俣則幸氏、アカデミー福島コーチも参加）が担当し、2012年度より2013年度にかけて継続的にサポートした。



その後も、福島県フットボールデーサッカー教室やJ P F A選手会復興支援リフレッシュなど、被災3県FAからの要望に応じ、ナショナルトレセンコーチを派遣した（2018～2020年）。

(2) サッカー施設 新設・改修

1) 被災地におけるサッカー施設整備

① 岩手県 釜石フットボールセンター松倉グラウンド 新設 (岩手県釜石市)

2012 年度

[施設概要]

釜石フットボールセンターは、釜石市が所有する旧陸上競技場（松倉グラウンド）を改修して整備したもの。JFA が人工芝のサッカーピッチ 1 面及び夜間照明設備を整備した他、地元釜石市が toto の助成金を受けてラグビーピッチを隣接して整備。また、新日鐵住金釜石の取引会社からの支援を受けて、クラブハウスを新築した。



住所：岩手県釜石市甲子町 10-159

[改修工事]

■ JFA 工事

- 人工芝グラウンド新設（サッカーピッチ分）
- 夜間照明（サッカーピッチ及びラグビーピッチ分）
- 簡易スタンド（観客席）

■ 釜石市工事

- 人工芝グラウンド新設（ラグビーピッチ分）
- クラブハウス新設

[工期]

2012 年 8 月～2013 年 3 月

[充当予算]

142,644 千円



②宮城県 MFA 松島フットボールセンター 改修 (宮城県松島町)

2011年度 2012年度

[施設概要]

MFA 松島フットボールセンターは、2009年度の都道府県フットボールセンター整備助成金を受けて人工芝グラウンド及び夜間照明を整備した施設で、2010年にMFA 松島フットボールセンターとしてオープン。地元自治体の松島町が所有する廃校施設（民間の高校跡地）を宮城県サッカー協会が借り受けてフットボールセンターとして運営している。人工芝グラウンドの他、天然芝グラウンド、無床体育館を有する。2011年の東日本大震災で、人工芝グラウンドの地下アスファルトにヒビが入り使用できなくなった他、クラブハウスや宿泊・研修、体育館などの施設が一部損壊した。



住所：宮城県宮城郡松島町手樽字大達沢13-1

[改修工事]

- 人工芝グラウンド改修 (2011年度中に終了)
- クラブハウス改修 (2011年度から継続)
- 研修宿泊室等改修 (2011年度から継続)
- 体育館改修・床張り他 (2011年度から継続)
- 観客席スタンド (2011年度からの継続)

[工期]

2011年7月～2012年5月

[充当予算]

2011年度支出：30,765千円 (人工芝改修)
 2012年度支出：116,655千円 (クラブハウス・体育館・研修/宿泊棟他改修)
 合計：147,420千円

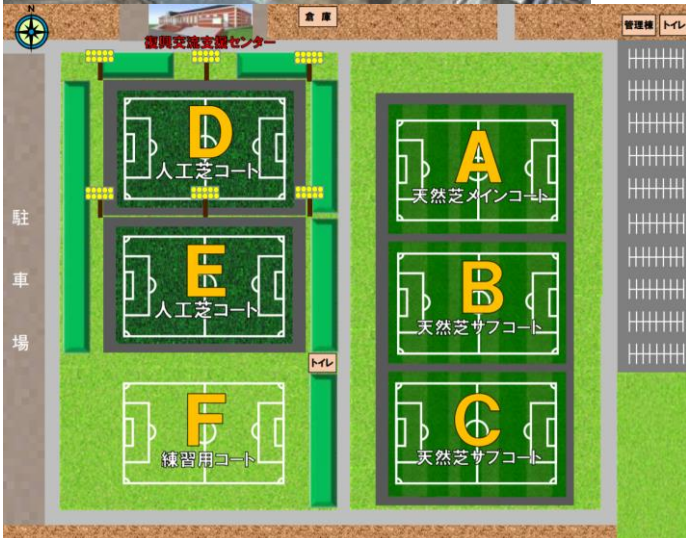


③福島県フットボールセンター 相馬市光陽サッカー場 改修（福島県相馬市）

2013年度

【施設概要】

相馬市にある光陽サッカー場は、震災のあった2011年の4月にオープンする予定であったピッチ6面程を確保できる大規模サッカー施設である。震災の影響で、オープンは数ヶ月遅れ、またピッチも震災の影響で大きな陥没や起伏が生じてしまった。福島県サッカー協会との度重なる協議の上、今回、JFAが行う東日本大震災復興支援活動の一環で、この光陽サッカー場を人工芝と天然芝のグラウンドに改修することが2012年末に決まり、2013年度の改修工事により、新たな拠点施設として生まれ変わった。



住所：福島県相馬市光陽 3-1

【改修工事】

■ JFA 工事

○人工芝ピッチ 1 面（新設）

○天然芝ピッチ 3 面（改修）

3 面分の埋設型スプリンクラー整備

うち、1 面はティフトン張り芝、2 面はポット苗による芝生化

■ 相馬市工事

○人工芝ピッチ 1 面（新設）

○夜間照明設備整備（ピッチ 1 面分）

○クラブハウス整備

【工期】

2013年5月～2013年9月

【充当予算】

149,992 千円



④いわき市新舞子フットボール場 人工芝グラウンド整備（福島県いわき市）

2015年度 2016年度

〔施設概要〕

2015年、相馬市に加え、福島県の沿岸部（浜通り）に2カ所目の施設をいわき市に整備することを決定。FIFA GOAL 資金の残額を活用し、JFA もその一部を負担するかたちで人工芝グラウンド1面を整備した。



住所：福島県いわき市平下高久字南谷地 16-1 新舞子フットボール場

〔工事内容〕

○人工芝ピッチ1面（新設）

〔工期〕

2016年1月～2016年5月

〔充当予算〕

本グラウンドの整備は、FIFA GOAL 資金を活用することから、FIFA のレギュレーションに従い、FIFA の発注により工事がなされた。受注者は入札の結果、FIFA が指定する推奨メーカーの一つである POLYTAN に決まり、649,922 円で契約が結ばれた。FIFA の GOAL 資金の残額が 523,924 円となっていたため、JFA が 125,998 円（14,197 千円）を負担。

⑤折笠スポーツ広場（茨城県日立市）

2017年度

【施設概要】

日立市にある折笠スポーツ広場内で整備された人工芝グラウンド。東日本大震災では、岩手県、宮城県、福島県で特に大きな被害があったが、茨城県の沿岸地域も一部震災の被害を受けており、特に茨城県北部のサッカー環境の改善に向け、茨城県サッカー協会との協議を経て、復興支援活動の一環として整備を支援した。



住所：茨城県日立市折笠町 987-1

【工事内容】

○人工芝ピッチ1面（新設）

【工期】

2016年9月29日～2017年3月27日

【充当予算】

15,000千円

（日立市に対して助成金として交付）

⑥その他（JFA サッカー施設整備助成事業）

2015年1月より始まった「JFA サッカー施設整備助成事業」において、各都道府県協会に割り当てられた1億円に加え、被災3県（岩手県サッカー協会・宮城サッカー協会・福島サッカー協会）に対してはさらに各県5,000万円（合計1億5,000万円）が配分され、下記施設がこの制度を活用し整備された。

岩手県	大船渡市赤崎グラウンド	人工芝1面	2018年3月完成
	山田町立総合運動公園	人工芝1面	2018年3月完成
	遠野市国体記念公園市民サッカー場	人工芝1面	2020年1月完成
	高田松原公園サッカー場	人工芝1面	2020年3月完成
宮城県	松島フットボールセンター	夜間照明設置	2017年8月完成
	鳥の海公園	人工芝1面	2018年4月完成

福島県 熱海フットボールセンター	人工芝 1面	2018年4月完成
会津総合運動公園多目的サッカー・ラグビー場	人工芝 1面	2019年3月完成

2) Jクラブホームスタジアム／練習環境等改修

東日本大震災はJリーグに大きな影響を与えた。特に、宮城県、茨城県を拠点に活動するベガルタ仙台、水戸ホーリーホック、鹿島アントラーズのホームスタジアム他、練習環境が大きな被害を受けた。Jリーグの調べによると、ホームスタジアムの改修費も含め、被害総額は24億円を超える。スタジアムを所有する地方自治体は国の補助等を受けながら2011年4月23日のJリーグ再開に向けて施設の改修を急いだ。一部、クラブの経営に関わる施設改修事業の実施が難しくなり、JFAとして約1億8,600円を投じ（一部FIFAの財政支援の対象）、以下の改修事業を実施している。

①ベガルタ仙台 / スタジアム・練習環境改修

2011年度



[ホームスタジアム改修]

- 対象施設／ユアテックスタジアム（仙台市所有）
- 工事内容／観客席改修
- 工事期間／2012年1月24日（工事完了）
- 工事金額／5,182千円

[練習環境改修]

- 対象施設／泉パークタウン練習場
- 工事内容／人工芝グラウンド改修
- 工事期間／2011年11月22日（工事完了）
- 工事金額／59,850千円



②水戸ホーリーホック

2011年度 2012年度



[練習環境改修]

- 対象施設／ホーリーピッチ（水戸市占有利用）
- 工事内容／天然芝グラウンド改修
- 工事期間／2011年12月～2012年6月まで
- 工事金額／20,454千円

③鹿島アントラーズ

2011年度



[ホームスタジアム改修]

- 対象施設／カシマサッカースタジアム（茨城県所有）
- 工事内容／館内監視カメラシステム改修・観客席改修
- 工事期間／2012年3月10日（工事完了）
- 工事金額／101,397千円

3) 施設整備/その他

①グリーンピア三陸みやこ多目的アリーナ（岩手県宮古市）

2012 年度

[施設概要]

グリーンピア三陸みやこは、宿泊施設の他、体育館やテニス場などを有する施設で、東日本大震災の際は、被災された地域の方々の受け入れ拠点となり、今でもその駐車場内には、宮古市田老エリアの方々の仮設住宅が整備されている。施設の一部の多目的アリーナは、屋内でテニスやゲートボールができる施設であったが、今回、東日本大震災復興支援活動の一環で、フットサルやミニサッカーができるよう、防球ネットを寄贈した。

[支援内容]

防球ネット設置
ミニゴール及び少年用コール寄贈

[充当予算]

4,654 千円



②気仙小学校仮設グラウンド芝生化（岩手県陸前高田市）

2012 年度

[施設概要]

気仙小学校仮設グラウンドは、東日本大震災で被害を受けた旧長部小学校のために地元の NPO 法人の協力で確保された仮設のグラウンドである。写真のとおり、当初はクレーのグラウンドであったが、2012 年 6 月にポット苗の移植を地元 NPO 法人の方々と協力して実施し、同年 9 月には写真のような芝生のグラウンドに生まれ変わった。

[支援内容]

ポット苗の無償提供
管理用具（肥料散布機）の寄贈

[充当予算]

2,000 千円（管理用具の寄贈分）



③大船渡 河川敷グラウンド芝生化（岩手県大船渡市）

2013 年度

[施設概要]

大船渡市河川敷グラウンドは、大船渡市内の河川敷にある土のグラウンドで、市内の 4 種登録チームの他、3 種中学校のサッカー部も使用するグラウンドである。特任コーチの加藤氏の調整の上、2013 年 6 月にポット苗の移植をすることが決まり、JFA にてポット苗 4 万株を無償提供し、同年 9 月には芝生のグラウンドに生まれ変わった。

[支援内容]

ポット苗の無償提供

[充当予算]

-（ポット苗費は PHQ 実施の「ポット苗方式芝生化モデル事業」の事業費で計上）

④福島県立遠野高校 天然芝グラウンド管理機材寄贈（福島県いわき市）

2013 年度

[施設概要]

福島県立遠野高校天然芝グラウンドは、いわき市サッカー協会が県立高校のグラウンドを借り受け、自前で天然芝グラウンドを整備した。JFA より、芝生の専門家を派遣し、より良いピッチ環境を創出するため、芝生の管理機材を寄贈する他、管理に関するアドバイスを実施。

[支援内容]

芝刈機、ペイントマシン、肥料散布機、管理倉庫の寄贈、ピッチ更新作業（オーバーシード他）

[充当予算]

888 千円

④ゴールの寄贈（岩手県・宮城県）

2014年度 **2020年度**

[支援内容]

震災後、被災沿岸地域でもようやく練習会場の確保が進み始め、JFA に登録する沿岸地域の4種チームの主たる練習場への少年用ゴール、フットサルゴール等を寄贈。

また、仮設住宅撤去により再び使用可能となったグラウンドへサッカーゴールを寄贈した。

- ・一般用ゴール：計4対
- ・少年用ゴール：計19対
- ・フットサルゴール：計9対
- ・ミニゴール：計2対

[寄贈先]

岩手県：グリーンピア三陸みやこ、へいがわ老木公園、宮古市立藤原小学校、北里大学（大船渡市）、大船渡市山村広場、釜石鶴住居復興スタジアム、根浜海岸多目的広場（釜石市）

宮城県：気仙沼市立大谷小学校・中学校、気仙沼小学校、登米市立登米小学校、東松島市立大曲小学校、矢本東小学校、女川総合運動公園、上釜ふれあい公園多目的広場（石巻市）、石巻市立鹿妻小学校、大街道小学校、広淵小学校、向陽小学校、セイホクベニア（石巻市）、岩沼市立玉浦小学校、山元町立山下第一小学校、巨理町立長瀬小学校、仙台市立東宮城野小学校、田子小学校、中野栄小学校、福室小学校、鶴巻小学校、古城小学校、旧小泉中学校跡地グラウンド（気仙沼市）

[充当予算]

13,828千円

⑤ミニゴールの寄贈（岩手県・宮城県・福島県）

2014年度

[支援内容]

震災後、外遊びの減少などで子どもたちの体力の低下が社会問題になりつつある中、県サッカー協会によるキッズプログラムの巡回指導先などを対象に、Jリーグと共に、保育園・幼稚園へミニゴールを寄贈した。

[寄贈先]

- 岩手県：17箇所（被災沿岸地域対象）
- 宮城県：60箇所（被災沿岸地域対象）
- 福島県：119箇所（相双・いわき・県北・県南地区対象）

[充当予算]

－円（ゴール購入費はJリーグが拠出。送料のみJFAが負担）



(3) 物資支援

2011年度

①緊急物資搬送／被災地訪問

- ・2011年3月23-24日、福島 福島県知事、広野町・楡葉町・富岡町、福島FAとの打合せ、支援物資搬送（ブランケット他）
- ・同年3月25日、宮城他 支援物資搬送（衣類他、生活必需品）
- ・同年3月30日、福島 福島県知事、教育委員会、富岡高校との打合せ
- ・同年4月5～6日、岩手県サッカー協会他 支援物資搬送（衣類他、生活必需品）
- ・同年4月15-16日、宮城 東北FA・宮城FA 審判委員長、東北1級審判員ヒアリング、支援物資搬送（ジャージ他）
- ・同年4月29-30日 岩手 支援物資搬送（衣類、靴、衛生用品他）
- ・同年5月27日、福島 文房具ほか搬送

②サッカーグッズ（ボール、バッグ、ミニゴール等）の提供

- ・2011年4月30日、岩手県サッカー協会（被災地の子どもたちへ）：サッカーボール150個／ミニゴール10セット
- ・同年5月15日、宮城県サッカー協会（被災地の子どもたちへ）：サッカーボール300個／ミニゴール10セット
- ・同年6月11-12日、第35回 全日本少年サッカー福島県大会：26被災チームに各5個（計130個）のサッカーボール贈呈

③各種サッカー教室等への物資後方支援

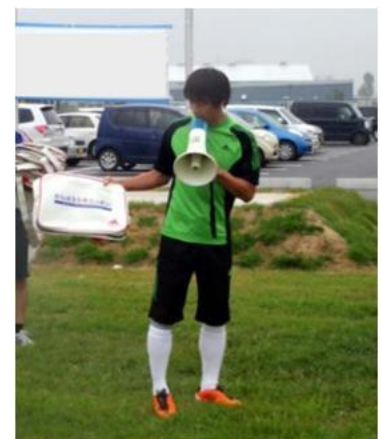
- ・岡田武史サッカー教室：5/28（宮城）、5/29（岩手）、6/4（宮城/石巻市）、6/5（宮城/気仙沼市）、6/20（岩手/大船渡市）サッカーボール50個／ボールバッグ5個／ひざ掛け1,000枚
- ・キリンカップ・パブリックビューイング：6/7 ひざ掛け1,000枚×5会場
- ・6/26 津波復興支援サッカー教室 岩手県宮古市河南中学校（松木安太郎、平瀬智行、セルジオ越後）※サッカーボール、ポップアップゴール
- ・7/2 名取市・サッカー教室（北澤豪）※サッカーボール80球
- ・7/23 相馬市・サッカー教室（中西哲生）※エナメルバッグ120個 ※全て2011年

④チームユニフォームの提供

2011年10月、岩手、宮城、福島の被災エリアを中心に活動する94チームに対し、合計1,965着のチームユニフォームを提供。対象チームは次頁参照。

⑤ダウンコート、ジャージの被災クラブ等への提供

2011年12月、冬を迎える被災地のサッカーファミリーに対して、各3,500点のダウンコート、ジャージ（上下セット）を提供。被災した約140チームを中心に提供。対象チームは次頁参照。



【チームユニフォーム、スパイク、ダウンコート、ジャージ（上下セット）提供先チーム】

■チームユニフォーム

【岩手県】

陸前高田市立第一中学校、FC 宮古デルフィーレ田老、FC バリバリ高田、FC 宮古フェニックス、FC 釜石 U-12、FC 田老、宮古野武士 FC、宮古南高等学校サッカー部、田老一中サッカー部、花輪サッカー少年団、河市中学校、大槌町役場サッカー部、釜石市役所、大槌サッカークラブ、大船渡中学校サッカー部、久慈クラブ、釜石中学校、甲子中学校、釜石東中学校、FC 釜石 U-15、新鐵物流釜石、高田フットボールクラブ、高田サッカークラブ、FC 山田ヴェルエー二、山田町役場サッカー部、FC バリバリ大作戦、大槌サッカークラブ・ジュニア、大船渡サッカークラブ、大船渡三陸 FC、大船渡東高校サッカー部、大船渡マスターズ FC、大船渡三陸 FC ドルフィン、大船渡第一中学校、大船渡市立赤崎中学校、FC サンアルタス大船渡、大船渡三陸 FC シーガル、山田高等学校、山田中学校、大槌中学校（計 39 チーム）

【宮城県】

NARUNOFC、気仙沼中学校、FC レアール、IJC ユナイテッド FC、玉浦サッカースポーツ少年団、石巻市立女子商業高等学校、わたりサッカークラブ、石巻市立山下中学校、気仙沼市立大谷中学校、亘理町役場サッカー部、石巻西高校サッカー部、宮城県水産高等学校サッカー部、FC 大谷スポーツ少年団、塩コンプ、南三陸町立歌津中学校、石巻サンファン、七ヶ浜町役場、クラブイレブン、宮城県農業高等学校、釜サッカースポーツ少年団、七郷クラブ、電力ノスタルジア FC、石巻市立青葉中学校、キャプテン翼、コバルトレ女川、石巻地区広域行政事務組合消防本部、KAZUMA.FC、やまもと JFC、女川町立女川第一中学校、石巻クラブ、南三陸町立志津川中学校、気仙沼市立鹿折中学校、FC 南三陸町スポーツ少年団、宮城県石巻商業高等学校、宮城県本吉響高等学校、荒浜ジュニオール FC、グレッサー石巻 FC、閉上 LEWDNESS、湊サッカースポーツ少年団（計 39 チーム）

【福島県】

南相馬市立小中学校、新地町尚英中学校、エステレーラ相馬、宜間サッカースポーツ、鹿島 SC、FC フレンズ、相馬東部 SS、新地町サッカースポーツ少年団、相馬サザン FC、楢葉町サッカースポーツ少年団、原町第二中学校、相馬市立磯部中学校、小高工業高等学校、いわき海星高等学校、常磐共同火力サッカークラブ、相馬サッカークラブ（計 16 チーム）

■スパイク/ダウンコート/ジャージ（上下セット）

【岩手県】

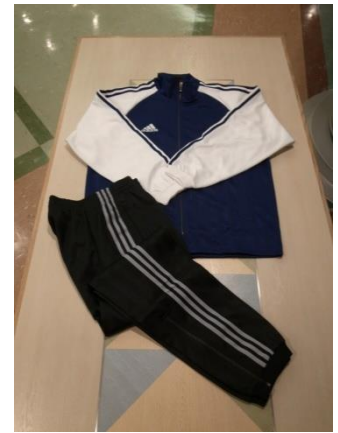
大槌町役場サッカー部、大船渡中学校サッカー部、山田町役場サッカークラブ、FC サン・アルタス大船渡、大船渡三陸 FC シーガル、大船渡市立赤崎中学校、大船渡市立第一中学校、大船渡三陸 FC ドルフィン、大船渡東高校サッカー部、大船渡マスターズ FC、大船渡三陸 FC、大船渡サッカークラブ、久慈クラブ、FC 宮古デルフィーレ田老、FC 宮古フェニックス、千徳 FC、花輪サッカー少年団、宮古高等学校女子サッカー部、宮古商業高等学校サッカー部、田老一中サッカー部、宮古市立河南中学校、宮古工業高等学校、宮古高校サッカー部、宮古野武士 FC、FC 田老、FC 釜石 U-12、KRT、釜石市立甲子中学校サッカー部、釜石市立釜石中学校サッカー部、釜石市立釜石東中学校サッカー部、FC 釜石 U-15、釜石高等学校サッカー部、釜石商工高校サッカー部、新日鐵釜石、釜石市役所サッカー部、高田フットボールクラブ、高田高等学校サッカー部、FC バリバリ高田、高田サッカークラブ、FC バリバリ大作戦、大槌サッカークラブ・ジュニア、大槌中学校サッカー部、大槌高等学校、大槌サッカークラブ、FC 山田ヴェルエー二、山田中学校サッカー部、山田高等学校サッカー部、大槌サッカー少年団、宮古市立第一中学校、サッカー部、宮古市立宮古西中学校サッカー部（計 50 チーム）

【宮城県】

石巻山下サンファン、蛇田 FC、石巻市立女子商業高等学校、宮城県水産高等学校サッカー部、石巻なでしこ、塩コンプ、七ヶ浜サッカークラブ、FC 大谷スポーツ少年団、EMFC、東松島サッカースポーツ少年団矢本 FC、東松島サッカースポーツ少年団 NARUNO FC、コバルトレ女川、コバルトレ女川ユース、コバルトレ女川ジュニアユース、多賀城市役所サッカー部、鹿折フットボールクラブ、開北 FC ファンタジスタ、石巻西高校サッカー部、東松島市サッカー部、コバルトレ FC、MAX、東松島市立矢本第二中学校サッカー部、南三陸町立歌津中学校サッカー部、石巻商業高等学校サッカー部、亘理町役場サッカー部、門脇サッカースポーツ少年団、七ヶ浜町立七ヶ浜中学校サッカー部、FC バリアンテ本吉、クラブイレブン、やまもと JFC、石巻工業高等学校、宮城県農業高等学校、おきのサッカースポーツ少年団、S・K（七郷・蒲町）SC、七ヶ浜 SC ジュニア、気仙沼高校サッカー部、門上 Lewdness、石巻北高等学校サッカー部、石巻地区広域行政事務組合消防本部サッカー部、釜サッカースポーツ少年団、門上サッカースポーツ少年団、石巻市立青葉中学校、荒浜ジュニオール FC、石巻黒潮サッカースポーツ少年団、七郷クラブ、七ヶ浜町役場、FC カナリヤ、SKSC、FC 南三陸スポーツ少年団、電力ノスタルジア FC、遠見塚 SC サッカースポーツ少年団、気仙沼市立大谷中学校、玉浦サッカースポーツ少年団、アズーラ松島 FC、グレッサー石巻 FC、渡波サッカースポーツ少年団、宮城県志津川高校、岩沼市役所サッカー部、鹿妻サッカースポーツ少年団、宮城県本吉響高等学校、湊サッカースポーツ少年団、宮城ゴールドサッカークラブ、邦立 DORIA、東陵高等学校サッカー部、石巻市立山下中学校サッカー部、多賀城 FC、キャプテン翼（計 66 チーム）

【福島県】

福島県立湯本高等学校、リベルターード磐城、いわき市立平第二中学校サッカー部、小名浜第二中学校、福島県いわき市立錦中学校サッカー部、福島県いわき市立四倉中学校サッカー部、アルテロFC いわき、F・Cビーベ、すずかけサッカースポーツ少年団、リアル・ステイング、常磐共同火力サッカークラブ、フェアリーズいわき、東日本国際大学サッカー部、原町高等学校、福島県立相馬農業高等学校、福島県立相馬東高等学校サッカー部、新地町立尚英中学校サッカー部、相馬市立中村第一中学校サッカー部、福島県相馬市立磯部中学校、FC 原一、相馬サザン FC、相馬四十雀、相馬サッカークラブ、フリーダム、福島県立富岡高等学校、エステレーラ相馬（計 26 チーム）



(4) 競技会関連活動

2011年度

①チャリティーマッチ

チャリティーマッチ「がんばろうニッポン！日本代表 vs Jリーグ選抜」

(2011年3月29日、大阪長居スタジアム、動員40,613人)

試合の収益金の他、募金活動22,317千円、物販収益33,891千円、チャリティーオークション(88点を出品)44,751千円の合計で、約2億1,000万円の資金が集まり、その内1億6,000万円を日本赤十字社に寄付、5,000万円を「サッカーファミリー復興支援金」に充当した。

国際親善試合なでしこジャパン(日本女子代表)対韓国女子代表

(2011年6月18日、愛媛エンジニアスタジアム、動員4,202人)

チケット収入4,090,000円を「サッカーファミリー復興支援金」へ。その他、なでしこジャパン「楓」Tシャツ発売(162枚販売)、募金活動、チャリティーオークションを実施。サイン入りユニフォーム、グッズ等、合計11点出品。

チャリティーマッチ「がんばろうニッポン！なでしこジャパン(日本女子代表)VS なでしこリーグ選抜」

(2011年8月19日)

7月22日～31日の間、FIFA女子ワールドカップ関連なでしこジャパン・グッズオークションを併せて実施。34点出品。



②競技会・募金活動等

PUMACUP2011 東日本大震災復興支援チャリティーフットサルデー

(2011年5月3日、東京・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館)

※募金活動・支援物資の収集を実施。

その他、募金活動をキリンカップサッカー2011(6/1新潟、6/4松本、6/7横浜)、なでしこジャパン試合(6/18松山)、U-22日本代表戦(6/19豊田)、フットサル日本代表戦(6/11名古屋、6/14代々木)他でも実施。



③被災者招待(キリンカップサッカー2011)

6月1日 SAMURAI BLUE(日本代表)対ペルー代表(新潟)

※募金活動の実施、被災者招待(児童170名、引率157名)

6月4日 ペルー代表対チェコ代表(松本)

※募金活動の実施、バナーの掲示等

6月7日 SAMURAI BLUE(日本代表)対チェコ代表(横浜)

※募金活動の実施(JFA職員他)、被災者招待(児童92名、引率84名)



④パブリックビューイング(キリンカップサッカー2011)への協力

6月7日 キリンビール/キリンビバレッジ/宮城県サッカー協会/岩手県サッカー協会/福島県サッカー協会の協力でパブリックビューイングを実施。

- ・岩手県シーバル大船渡市民体育館前 約50名観戦
- ・宮城県石巻小学校校庭 約300名観戦
- ・宮城県六郷中学校 約300名観戦
- ・宮城県山元町山下中学校体育館 約130名観戦
- ・福島県福島ビッグパレット 約300名観戦 ※①②③④は全て2011年。



2012年度

①FIFA U-20 女子ワールドカップ関連ほか

2012年8月に開催されたFIFA U-20女子ワールドカップ関連では、岩手県宮古市のグリーンピア三陸みやこでパブリックビューイングを実施した他、福島県でのガールズフェスティバルの開催、被災者の招待などを実施。また、なでしこ関連では、「なでしこの書」の復興支援チャリティも実施した。

②FIFA クラブワールドカップ関連

2012年12月に開催されたFIFAクラブワールドカップでは、「OUR HEARTS WITH YOU」をスローガンに復興支援活動に取り組んだ。東日本大震災で特に甚大な被害を受けた岩手県・宮城県・福島県の沿岸地域の4種登録チーム約60チームに対して、出場チームからのサイン入りのメッセージフラッグを贈呈するなど、きめ細やかな支援活動を行った。



2013年度

①キリンチャレンジカップ 2013 (8/14 @宮城スタジアム)

2013年8月14日、震災後、東北での初の日本代表戦「キリンチャレンジカップ 2013 SAMURAI BLUE (日本代表) vs ウルグアイ代表」を宮城県・宮城スタジアムで開催。開催にあたり、日本代表の練習時に被災地の4種チームの子どもたちを招待した。



2014年度

①キリンチャレンジカップ 2014 (3/5 @国立競技場)

日本とニュージーランドは2011年に国立競技場で対戦することになっていたが、試合の1ヶ月ほど前、ニュージーランドの南島で地震が発生し、クライストチャーチを中心に日本人を含む185人が亡くなるという大惨事に見舞われた。JFAはこの時、ニュージーランドサッカー連盟に200万円を義援金として拠出。さらに、この試合を行う国立競技場で募金活動を実施し、全額をニュージーランド連盟に寄付することになっていた。ところが、その試合を18日後に控えていた2011年3月11日、今度は日本で東日本大震災が発生。ニュージーランド戦は開催中止となり、試合会場での募金も実施には至らなかった。それから3年、2014年3月5日、ニュージーランドとのキリンチャレンジカップが実現し、それは国立競技場で行う最後の代表戦となった。JFAは、この試合の収益の一部から、ニュージーランドに500万円、そして、JFA復興支援金に500万を義援金として拠出した。



②チャリティーサッカー2014 (12/14 @ユアテックスタジアム)

- イベント名称：日本プロサッカー選手会 チャリティーサッカー2014
- 開催日：ふれあい活動“グリーティング DAY”：2014年12月13日(土)
- チャリティーマッチ：2014年12月14日(日)
- ジャストギビング寄付プログラム：2014年11月3日(月・祝)～2015年1月4日(日)
- チャリティーオークション：2014年11月3日(月・祝)～2015年2月
- 主催：公益財団法人日本サッカー協会／公益社団法人日本プロサッカーリーグ
- 共催：一般社団法人日本プロサッカー選手会(JPFA)／仙台市
- 主管：一般社団法人宮城県サッカー協会
- 運営協力：株式会社バガタ仙台／公益財団法人仙台市スポーツ振興事業団
- 後援：宮城県／宮城県教育委員会
- 協力：一般社団法人Jリーグ選手OB会／アディダス ジャパン株式会社
- ※JFAは、被災地からの招待用のバス経費を中心に、ふれあい活動“グリーティング DAY”の開催経費(300万円相当分)を負担。



(5) サッカー教室・フェスティバル支援他

①元日本代表派遣・サッカー教室

2011 年度

- 4/30、「岩手県フットボールセンター開場記念式典・キックオフセレモニー竣工式」主催は社団法人岩手県サッカー協会、場所は紫波郡紫波町で実施。キックオフセレモニー後、被災地の子どもたち（約150名）を招き、北澤豪のサッカー教室を実施。
- 5/15、「サッカー宮城復興へ向けたキックオフ!!」を宮城県サッカー協会の主催で宮城県立サッカー場において実施。JFAは元日本代表の加藤久、小倉隆史、平瀬智行を派遣。被災地の子どもたち（約450名）のサッカー教室を実施。



②JFA 被災地特別サッカークリニック

2011 年度

- 6/14、宮城県東松島市たかぎの森公園にて、東松島近隣地域を含むチーム及び選手（約100名）を対象に実施。指導はJFAナショナルトレセンコーチ（他地域からのトレセンコーチも参加）。
- 6/14～15、岩手県大船渡高校グラウンドにて、大船渡市近隣中学校部活チームを対象に実施。指導はJFAナショナルトレセンコーチ。



③津波復興支援サッカー教室

2011 年度

- 6/26 岩手県宮古市河南中学校（宮古市周辺中学校4校から200名を対象）（松木安太郎、平瀬智行、セルジオ越後他）



④「震災から世界へ～福島からサッカーすることの喜びを発信しよう～」

2011 年度

- イベント補助（サッカー教室講師／講演者の派遣）
- 7/2・3（須賀川市具ルースタジアム/福島空港グラウンド会議室）

⑤アディダス ジャパン協働サッカー教室

2011 年度

- アディダスジャパンの協力でサッカー教室を実施。7/18、岩手県フットボールセンターにて実施。
※上記①から⑤は全て2011年

⑥フェスティバル支援

2011 年度

【キッズフェスティバル】

- 2011年6月11日、山形県米沢市松川河川敷緑地グラウンド：原発事故の影響で、活動が制限されている福島県県北の子どもたちを山形県米沢市の協力で米沢市で開催。
- 同年7月9日、福島県鶴沼緑地（会津坂下町）：ナショナルトレセンコーチ菊池利三氏を派遣。
- 同年10月2日、岩手県営運動公園陸上競技場：（ユニクロサッカーキッズ！）JFA特任コーチ加藤久氏をゲスト派遣。沿岸部の被災地からバス2台で子どもたちを招待。
- 同年11月19日、岩手県宮古市総合体育館シーアリーナ：ナショナルトレセンコーチ西入俊浩氏を派遣。常盤木学園高校サッカー部5名のゲスト。東北地方では初めて女子ワールドカップトロフィーを会場に展示。

【女子フェスティバル】

- 同年6月19日、MFA松島フットボールセンター：JFAレディーズ/ガールズサッカーフェスティバル2011。宮城 in 松島 Spring」。日本代表OG高倉麻子/手塚貴子氏を派遣。

【ファミリーフットサル】

- 同年6月26日、宮城県マツムラフットサルコート：元フットサル日本代表相根澄氏を派遣。
- 同年6月26日、福島県会津若松市鶴ヶ城体育館：元フットサル日本代表藤井健太氏を派遣。
- 同年7月9日、福島県母畑レイクサイド（石川町）：フットサル日本代表星翔太選手（スペイン1部リーググアダラハラ所属）、元バルドラール浦安荒巻太郎選手を派遣。
- 同年7月18日、福島県磐梯熱海スポーツパーク体育館（郡山市）：高島大輔氏（イタリアセリエA元選手）、中野歩氏（Fリーグベスカドーラ町田元選手）派遣。
- 同年7月24日、宮城県MFA松島フットボールセンター：（スペシャルステージ）フットサル日本代表





- 星翔太選手（スペイン1部リーググアダラハラ所属）、元バルドラール浦安荒巻太郎選手を派遣。
- 同年9月9日、宮城県リベラ中山：JFAの復興支援活動の一環として大型バス2台で被災地の子どもたちを招待。高島大輔氏（フットサルのスペイン、イタリアリーグなどで活躍）を派遣。
- 同年10月29日、茨城/日立市十王スポーツ広場体育館：高島大輔氏（元スペインリーグ等フットサル選手）、中野歩（ペスカドーラ町田コーチ）、ウェザフォード力哉氏（マルバ水戸）を派遣。
- 同年12月5日、茨城県ケーズデンキスタジアム水戸：フットサルスペインリーグで活躍の高島大輔氏、全日本選手権で優勝のカプリンが元選手の関根充氏を派遣。宮川亮子選手（元フットサル女子日本代表）、坂本昌美選手を招へい。
- 2012年2月26日 宮城/MESSEI 仙台長町：高島大輔氏（元スペインリーグ等フットサル選手）、中野歩（ペスカドーラ町田コーチ）を派遣。

【フットボールデー】

- 2011年11月20日、宮城/名取スポーツパーク：ナショナルトレセンコーチ西入俊浩氏、大部由美氏を派遣。常盤木学園高校サッカー部5名のゲスト。

【その他】

- JFA各種フェスティバル被災地特別支援として、JFAの補助金を受けて実施する各種フェスティバルの実施にあたり、特に沿岸部等の被災地から子どもたちを招待し、実施する場合の旅費を、岩手・宮城・福島FAを対象にJFAが既存の補助金の他に別途支援。各県上限200万円。

⑦第35回全日本少年サッカー福島県大会への協力

2011年度

2011年6月11-12日、相楽亨/大塚晴弘（プロフェリー）、青山健太/井上知大（Jリーグ担当レフェリー）を派遣。その他、26の被災チームに各5個（計130個）のサッカーボールを贈呈。

⑧東北3県復興支援選抜イングランド遠征

2011年度

2011年11月21-27日、東北3県の選抜16名でイングラウンド・ウェンブリー遠征を実施。FA（英国サッカー協会）からの提案を受け、加藤久特認コーチを団長・監督に、岩手、宮城、福島3県の協会から高校生16名を選抜し遠征。試合当日はジェレミー・ハント文化スポーツ大臣、バーンスタインFA会長、Sir ボビー・チャールトン氏から挨拶を頂き、在英日本人チーム（帝京ロンドン学園高、ロンドン・ジャパニーズFC）と2試合を行った。遠征にあたり、在英日本商工会議所、在英日本企業の協賛。渡航費用は全日空が無償提供。ロンドンでの滞在費用は帝京ロンドン学園が宿泊と食事を無償提供。



⑨日本高校生訪中代表団

2011年度

2011年12月5日から12日の期間で、外務省の日中交流事業の一環として、高校生200名が「平成23年度日本高校生訪中代表団第3陣」として派遣された。テーマ性をもったプログラムを実施すべく、日中双方で関心の高い「サッカー」に焦点をあて、福島、宮城、岩手の被災3県から「サッカー交流」として100名が派遣された。北京及び山東での現地高校生とのサッカー交流を含め、見学ホームステイを通じて交流を図った。



⑩復興支援サッカーフェスティバル 2012in 時の栖

2012年度

2012年2月4～5日、18～19日に、復興支援サッカーフェスティバル実行委員会の主催により、静岡県御殿場市の時の栖にてサッカーフェスティバルを実施。対象は、U18男子6チーム（帝京安積高校、福島県立富岡高校、仙台育英高校、岩手県立盛岡商業高校、JFAアカデミー福島αチーム・βチーム）、U15女子4チーム（福島県選抜、宮城県選抜、岩手県選抜、JFAアカデミー福島U15）、U15男子4チーム（福島県選抜、宮城県選抜、岩手県選抜、JFAアカデミー福島U15）の計14チーム。



⑪復興支援サッカーフェスティバル（2014 年以降）

2014 年度 2015 年度 2016 年度 2017 年度 2018 年度 2019 年度 2020 年度

【岩手】

2014 年 10 月 13 日（月・祝） @釜石フットボールセンター（松倉グラウンド）

岩手県沿岸地域の小学生チームの選手とその指導者・保護者を中心に、日本プロサッカー選手会協力のもと、J3・グルージャ盛岡の選手・スタッフ、そして JFA から手倉森浩復興支援特任コーチ（当時）も参加し、総勢 524 名が本フェスティバルに参加した。

2015 年 12 月 5 日（土） @グリーンピア三陸みやこ多目的アリーナ（宮古市）

岩手県沿岸地域の小学生チームを中心に 371 名が参加。防球ネットば奇贈したグリーンピア三陸みやこの多目的アリーナにてサッカー教室やゲームの他、日頃、子どもたちのサッカーを支えている指導者同士の交流会も実施した。

【宮城】

2014 年 10 月 25 日（土） @MFA 松島フットボールセンター

被災された宮城県沿岸地域の小学生チームの選手とその指導者・保護者を中心に、手倉森誠 U-21 日本代表監督（当時）と手倉森浩 JFA 復興支援特任コーチ（当時）、ナショナルトレセンコーチ東北担当など、総勢 420 人が参加。U-12 の選手たち向けのサッカー教室を実施した他、隣のピッチでは指導者と保護者の大人交流ゲームとキッズプログラムを行った。この他、ピッチ外プログラムとしてバーベキューやマグロ解体ショーを楽しんだ。

2015 年 11 月 8 日（日） @MFA 松島フットボールセンター

宮城県沿岸部のうち、2015 年は名取市、岩沼市、山元町、亘理町の小学生年代のチームの子どもたちを中心に総勢 320 名が参加し、サッカーフェスティバルを開催した。当日は雨天のため、サッカー教室とゲームを午前中に実施し、ピッチ外プログラムとして 2014 年度同様に、バーベキューやマグロ解体ショーを楽しんだ。

2016 年 11 月 6 日（日） @MFA 松島フットボールセンター

2016 年は宮城県中央地区の JFA フットボールデーに併せて開催され、これまでと同様サッカーのイベントやバーベキューを中心に楽しんだ。

【福島】

2014 年 9 月 15 日（月・祝） @相馬光陽サッカー場（相馬市）

地元の小学生チーム、中学校、高校のサッカー部、社会人チームの選手・指導者・保護者が参加。またゲストとして、J3・福島ユナイテッド FC の選手・スタッフ、日本プロサッカー選手会の協力により J1・FC 東京の石川直宏選手、塩田仁史選手、高橋秀人選手、なでしこリーグ・INAC 神戸の田中陽子選手、JFA の手倉森浩復興支援特任コーチが参加した。当日は、フットボールセンターのクラブハウス機能を併せ持つ相馬市復興交流支援センターの完成記念式典が行われた後、フェスティバルがスタート。福島ユナイテッド FC のスタッフ・選手が地元の U-12 の選手たちにサッカー教室を行い、FC 東京の 3 選手、田中陽子選手、手倉森浩 JFA 復興支援特任コーチも参加した。

2015 年 11 月 22 日（日） @いわき市 21 世紀の森公園 多目的グラウンド

2015 年度の福島県のフェスティバルは昨年度の相双地区に続き、浜通り南部のいわき地区にて開催した。総勢 197 名が参加し、手倉森浩特任コーチのサッカー教室の他、交流ゲームを楽しんだ。

2017 年 9 月 10 日（日） @西部サッカー場（郡山市）

開催日は日本サッカー協会創立記念日であり、多くのサッカーファミリーが集う「JFA フットボールデー」であったことから、「JFA フットボールデー 2017 in 福島」も兼ねたイベントとして開催、当日は福島県



内から約750人が集まり、秋晴れの下で一日中サッカーを楽しんだ。

2018年5月19日(日) @郡山市熱海フットボールセンター

影山雅永 U-19 日本代表監督、山路氏による少年サッカー教室をはじめ、アトラクションなどで約200人の子どもたちが参加した

2019年9月7日(土) @郡山市熱海フットボールセンター

18チームの参加があり、午前148名、午後82名の子どもたちを対象に、JFA ナショナルトレセンコーチの手倉森浩氏、矢野隼人氏、秋葉武彦氏によるサッカー教室が行われた。また、同時展開で福島 FA 運営委員によるアトラクション（キックターゲット、フットゴルフ、ブラインドサッカー体験）も行われた。

2019年9月8日(日) @相馬光陽サッカー場(相馬市)

12チームからの参加があり、125名の子どもたちを対象に、午後からJFA ナショナルトレセンコーチの手倉森浩氏、矢野隼人氏、によるサッカー教室が行われた。また、同日午前で開催されたキッズリーダー講習会を受講した相双地区の高校生役20名が運営に協力して、アトラクション（キックターゲット、フットゴルフ、ブラインドサッカー体験）も行われた。

2020年9月13日(日) @新舞子フットボール場(いわき市)

5チーム、5人の個人申込からの参加があり、60名の子どもたちを対象に、JFA ナショナルトレセンコーチの手倉森浩氏、によるサッカー教室が行われた。また、同時展開で福島 FA 運営委員によるアトラクション（キックターゲット、フットゴルフ、ブラインドサッカー体験）も行われた。

(6) 被災チーム活動補助

被災沿岸地域登録チーム交通費補助

2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
					2019年度	2020年度

東日本大震災で、特に大きな津波被害を被った岩手県・宮城県の沿岸地域の第3種及び第4種の登録チームを対象に、日頃のサッカー活動を支えることを目的に、交通費補助を実施した。
(2020年度より岩手県の第2種登録チームを追加)

[補助実績]

2012年度	9,899千円	2017年度	9,074千円
2013年度	7,917千円	2018年度	8,919千円
2014年度	11,194千円	2019年度	6,648千円
2015年度	8,733千円	2020年度	3,980千円(12月末時点)
2016年度	10,811千円		
総額:	77,175千円		

[対象チーム] *2020年度対象

岩手県			宮城県		
種別	市町村名	登録チーム名	種別	市町村名	登録チーム名
第2種	宮古市	宮古高校	第3種	女川町	女川町立女川中学校
		宮古商工高等学校		気仙沼市	気仙沼市立気仙沼中学校サッカー部
	大槌町	大槌高校		気仙沼市	気仙沼市立鹿折中学校
		釜石市		釜石高校	気仙沼市立松岩中学校サッカー部
		釜石商工高校		気仙沼市	気仙沼市立条南中学校
	大船渡市	大船渡東高校		気仙沼市	気仙沼市立大谷中学校
	陸前高田市	高田高校		気仙沼市	新月中学校
	第3種	岩泉町		岩泉中学校	気仙沼市
山田町		山田町立山田中学校	石巻市	Cobaltore 女川 ジュニアユース	
第3種	釜石市	F C釜石U-15	石巻市	石巻市立住吉中学校	
第3種	釜石市	釜石市立釜石中学校サッカー部	石巻市	石巻市立青葉中学校	
第3種	釜石市	釜石市立甲子中学校サッカー部	石巻市	渡波中学校サッカー部	
第3種	釜石市	釜石東中学校サッカー部	石巻市	石巻市立河南東中学校	
第3種	宮古市	宮古市立河南中学校	石巻市	石巻市立山下中学校	
第3種	宮古市	宮古市立第一中学校サッカー部	石巻市	石巻市立蛇田中学校サッカー部	
第3種	宮古市	宮古西中学校サッカー部	石巻市	石巻市立門脇中学校	
第3種	宮古市	田老第一中学校サッカー部	東松島市	東松島市立矢本第一中学校	
第3種	大槌町	大槌町立大槌学園サッカー部	東松島市	矢本第二中学校	
第3種	大船渡市	大船渡三陸 F Cドルフィン	南三陸町	歌津中学校サッカー部	
第3種	大船渡市	大船渡市立第一中学校サッカー部	南三陸町	南三陸町立志津川中学校サッカー部	
第3種	陸前高田市	陸前高田市立高田第一中学校サッカー部	山元町	山元町立山下中学校サッカー部	
第4種	岩泉町	岩泉サッカークラブ ジュニア	第3種	亘理町	亘理町立逢隈中学校
	釜石市	F C釜石U-12	第3種	亘理町	亘理町立亘理中学校
第4種	釜石市	釜石ロビンフットボールクラブ	第4種	女川町	女川サッカースポーツ少年団
第4種	宮古市	F C宮古フェニックス	第4種	気仙沼市	F Cバリエンテ本吉
第4種	宮古市	千徳 F C	第4種	気仙沼市	気仙沼 シャークス F C
第4種	宮古市	M I Y A K O ・ S C	第4種	気仙沼市	鹿折フットボールクラブ
第4種	山田町	F C山田ヴェルエーニ	第4種	気仙沼市	F C大谷スポーツ少年団
第4種	大槌町	大槌・サッカークラブ・ジュニア	第4種	石巻市	門脇・大街道サッカースポーツ少年団
第4種	大船渡市	F Cサンアルタス大船渡	第4種	石巻市	湊サッカースポーツ少年団
第4種	大船渡市	大船渡三陸 F Cシーガル	第4種	石巻市	広瀬サッカースポーツ少年団
第4種	陸前高田市	高田フットボールクラブ	第4種	石巻市	Cobaltore 女川 石巻ジュニア
			第4種	石巻市	Progresso I-SKY SC
			第4種	石巻市	鹿妻サッカースポーツ少年団
			第4種	石巻市	蛇田 F C
			第4種	石巻市	石巻 F Cファンタジスタ
			第4種	石巻市	渡波サッカースポーツ少年団
			第4種	東松島市	東松島サッカークラブ
			第4種	南三陸町	F C南三陸スポーツ少年団
			第4種	亘理町	おおくまサッカースポーツ少年団
			第4種	亘理町	わたりフットボールクラブ
			第4種	亘理町	荒浜ジュニオール F C

(7) JFA・キリンスマイルフィールド / JFA・キリンビックスマイルフィールド

2011年度 2012年度 2013年度 2014年度 2015年度 2017年度 2018年度 2019年度

JFA・キリンスマイルフィールド

岩手・宮城・福島県の3県の小学校を対象に、サッカー元日本代表が訪問し、子どもたちにサッカーを通じて笑顔になってもらう活動。後述の JFA・キリンビックスマイルフィールドへ移行する 2017 年 3 月までに 103,752 人の子どもたちが参加した（参加小学校：693 校）

※実施校等の詳細は、<http://www.kirin.co.jp/csv/soccer/smile/>に掲載



JFA・キリンビックスマイルフィールド

東日本大震災後 6 年間で 693 の小学校を訪問してきたキリンスマイルフィールドが、2017 年度より「JFA・キリンビックスマイルフィールド」として、それぞれの被災地により寄り添う形のフェスティバル形式で生まれ変わって開催された。



〔開催実績〕

2017年	9月10日(日)	岩手県宮古市(宮古運動公園陸上競技場)
	10月14日(土)	福島県郡山市(西部サッカー場サブコート)
	12月10日(日)	宮城県南三陸町(南三陸ベイサイドアリーナ)
2018年	9月29日(土)	岩手県大船渡市(大船渡市赤崎グラウンド)
	11月23日(金・祝)	宮城県利府町(ひとめぼれスタジアム宮城)
	12月24日(月・祝)	福島県楡葉町(Jヴィレッジ)
2019年	9月1日(日)	岩手県陸前高田市(夢アリーナたかた)
	11月24日(日)	福島県楡葉町(Jヴィレッジ)

※2020年度はコロナウイルス感染拡大のため中止

※実施報告等、詳しくは、<https://www.kirin.co.jp/csv/soccer/bigsmile/index.html>に掲載

(8) DREAM 福島アクションプラン

2017年度 2018年度 2019年度 2020年度



DREAM 福島アクションプラン

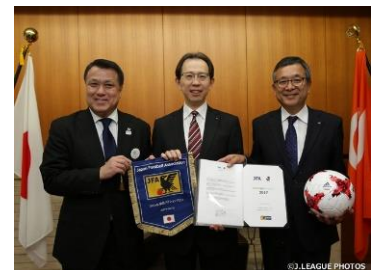
サッカーファミリーのチカラをひとつに

JFAとJリーグは2017年3月、これまで継続的に行ってきた、サッカーを通じた福島の復興により一層の力を注ぐとして、復興に向けた行動計画「DREAM 福島アクションプラン 2017」を打ち出し、同年4月にフロントオフィスを開設した。

本プロジェクトでは、復興を続ける福島県にサッカーの振興を通じて、復興に立ち向かう勇気や挫けない気持ちを応援することを基本的方針とし、これからの担う子供たちへの指導や、活動を通じて福島の現状の発信などを行うこととしている。

具体的なプログラムは以下のとおり。全面再開されたJヴィレッジの活用を中心に、地元自治体や学校などと連携し、様々なプログラムを継続的に実施している。

- ・ 指導者の派遣とフロントオフィスの開設・運営(2017年～)
- ・ 日本サッカー協会及びJリーグの理事会・実行委員会の開催(2017年～)
- ・ Jクラブによる応援活動の実施(2017年～)
- ・ JヴィレッジカップU18など育成年代の男女大会の開催(2017年～)
- ・ Jヴィレッジカップの開催(2019年～)
- ・ Jヴィレッジの全面再開(2019年)
- ・ Jリーグ公式戦の開催(2018年～)
- ・ 日本サッカー協会主催大会、Jリーグ主催大会等の開催(2019年～)
- ・ 現役Jリーグ選手やなでしこリーグ選手によるサッカー教室の実施(2017年～)
- ・ キッズプログラムの展開(2017年～)
- ・ 校庭・園庭等の芝生化の推進(2017年～)
- ・ JFA こころのプロジェクトの実施(2017年～)
- ・ JFA アカデミー福島の再開に向けた行動計画の策定・取り組みの実施(2017年～)



DREAM 福島アクションプラン SAMURAI BLUE (日本代表) チャリティーオークション

活動の一環として、福島復興支援を目的としたチャリティーオークションを開催した。キリンチャレンジカップ 2017 でシリア代表と対戦した SAMURAI BLUE (日本代表) の協力のもと、サイン入りユニフォームやスパイク、グローブなどを出品し、収益は JFA が行う東日本大震災復興支援活動に充当するものとした。6月12日から25日まで2回に分けて実施し、収益の合計金額は5,270千円となった。



3. その他

(1) 登録料免除

2011年度 **2012年度** **2013年度** **2014年度** **2015年度**

2011年度より、被災したサッカーファミリーの JFA 登録料を免除。登録料免除は2015年度まで実施。

[登録免除数と免除額]

[5年間の登録料免除実績]

	サッカー			フットサル		審判	指導者	役員	免除額 (千円)
	チーム	監督	選手	チーム	選手				
2011	293	138	9,338	-	1,226	1,177	1,820	9	22,667
2012	333	150	9,411	-	1,318	8,295	797	6	36,757
2013	322	180	9,200	-	1,300	3,454	741	6	23,409
2014	227	131	6,622	7	238	2,833	716	6	20,863
2015	223	59	6,124	10	246	1,970	743	6	15,729

※上記免除金額にサッカーファミリー復興支援金は充当していない。

(2) サッカーファミリー復興支援金 収支

項目	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合計
□収入の部											
寄付	36,921	8,752	5,451	13,384	3,300	1,072	6,510	2,862	2,056	39	80,347
JFA	166,090	3,677	0	5,000	0	0	0	0	0	0	174,767
キリングループ	100,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100,000
UEFA	51,260	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51,260
FIFA		370,372	42,736	0	82,158	0	77,748	0	0	0	573,014
年度収入合計	354,271	382,801	48,187	18,384	85,458	1,072	84,258	2,862	2,056	39	979,388
□支出の部											
施設整備	201,083	258,433	150,492	0	0	14,197	15,000	0	0	0	639,205
施設整備(予備費)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支援物資	87,227	0	694	0	0	0	0	0	0	2,634	90,555
被災沿岸地域交通費補助	0	9,899	7,917	11,194	8,733	10,811	9,074	8,189	8,616	5,214	79,647
各種活動支援	31,620	20,120	6,894	24,616	16,403	3,606	2,601	1,237	99	19	107,215
その他	15,907	0	255	0	0	0	0	4,403	939	777	22,281
年度支出合計	335,837	288,453	166,252	35,810	25,136	28,614	26,675	13,829	9,654	8,644	938,904
年度収支差額	18,434	94,348	-118,065	-17,426	60,322	-27,542	57,583	-10,967	-7,598	-8,605	
繰越金(累計)	18,434	112,782	-5,283	-22,709	37,613	10,071	67,654	56,687	49,089	40,484	